

魚類のダイオキシン類調査結果

1 趣旨

県では不法投棄現場下流の杉倉川、熊原川に生育する魚類のダイオキシン類濃度の状況を把握するため、平成16年度よりイワナ・ヤマメ・ウグイの順で1年に1種類ずつ調査を行っている。

平成25年度の調査結果は以下のとおりである。

2 検体採取日

平成25年8月15日

3 調査結果

平成25年度の調査結果（毒性等量）は次のとおりであり、既存調査結果の範囲内であった。

試料名	採取場所	濃度（毒性等量）
ヤマメ	熊原川	1.7 pg-TEQ/g-wet

注1 ヤマメは全10個体を用い、可食部（筋肉部）のみを混合し、これを1検体として分析に供した。

注2 毒性等量とは、各化合物の実測濃度に毒性等価係数（TEF）を用いて換算した値で、今回の調査ではWHO-TEF(2006)で定めたTEFを適用して算出。

注3 検出下限未満のものは、試料における検出下限の1/2の値を用いて算出。

【参考1：これまでの調査結果】

年度	試料名	採取場所	濃度（毒性等量）
平成16年	イワナ	熊原川	0.28 pg-TEQ/g-wet
平成17年	ヤマメ	〃	2.5 pg-TEQ/g-wet
平成18年	ウグイ	〃	0.62 pg-TEQ/g-wet
平成19年	イワナ	〃	0.72 pg-TEQ/g-wet
平成20年	ヤマメ	〃	2.0 pg-TEQ/g-wet
平成21年	ヤマメ	〃	1.8 pg-TEQ/g-wet
平成22年	ヤマメ	〃	0.18 pg-TEQ/g-wet
平成23年	ウグイ	〃	0.22 pg-TEQ/g-wet
平成24年	イワナ	〃	0.35 pg-TEQ/g-wet

【参考2：公表されている国の調査結果】

年度	試料名	調査地点	濃度（毒性等量）
平成11年	ヤマメ	関東地方	0.99～0.13 pg-TEQ/g-wet
		中部地方	2.0～0.24 pg-TEQ/g-wet
		九州地方	0.12 pg-TEQ/g-wet

※平成11年度公共用水域等のダイオキシン類調査結果（平成12年8月25日 環境庁）